

維持管理に関する相談事例

作成日	平成 26 年 6 月 20 日		
番号	09		
タイトル	タイロッドの補修・延命化の必要性判断について		
キーワード	土中鋼構造物、タイロッド、補修、延命化		
内容	(経過) 昭和 61 年度に完成した鋼矢板式（控え組杭式）岸壁（-4.5m） 当初 25 年の耐用年数で設計 平成 26 年度に長寿命化（今後 50 年間耐久性を考慮）のための改良 （鋼矢板の鉄筋コンクリート補強と飛沫帯の防食等）を予定 現在、岸壁法線は正常である。 (相談内容) ・改良は、今後 50 年の耐久性を目標としているが、タイロッドは、50 年間の腐食代を考慮しておらず、設計計算の許容応力度を平成 40 年頃に越えることになる。（控え組杭は、今後 50 年の腐食代を考慮しても許容応力度を超えない） ・この場合、維持管理に関する相談番号 08 を参考としてよいものか、腐食調査を行って、必要であればタイロッド等の電気防食等の対策を行う事が適切であるのかご教授いただきたい。		
	添付資料等の有無 ☒ 無・☐ 有		
回答	補修に関しては、相談事例 08 を参考として良いと考える。 ご指摘のとおり、補修後の状況を把握することが困難であることから、補修を実施されたとしても不安が残る。 延命化に関しては、腐食調査だけでなく損傷状況や残存耐力等の確認も実施していただき、問題ない状況であれば継続して使用しても良いと考える。 土中鋼構造物の防食に関しては、港湾構造物でもいくつか事例があることは聞いている。 いずれも調査方法の詳細や事例は専門業者等にヒアリングをしていただきたい。		
	添付資料等の有無 ☒ 無・☐ 有		
回答後の対応	回答を踏まえて対応を調整したいと思う。		
	添付資料等の有無 ☒ 無・☐ 有		